

執筆担当:斎藤登美夫



一方、日米首脳会談については、「ハシゴを外された」などと完全な「あげ足取り」ともいえる内容が多い。また、たとえば会談時間関連についての否定的な見解も多数散見されている。しかし、22日に実施された1回目の会談35分間は、その日実施された米英首脳会談(20分間)など幾つかよりも長く、同日トランプ氏が行った会談としては最長。また26日に実施された2回目の会談は20分間だったが、高市首相の説明によると、「習主席の訪米直後というタイミングで電話をいただき、今般の米中首脳会談について詳細に説明があった」という。これからすると、日本側からではなく、米国側から連絡があったと思われる。これらになんの問題があるのかまるでわからないし、先で取り上げた「ハシゴが外さ

また、そうしたなか 25 日には片山財務相とベッセント米財務長官、日米財務相が別途電話会談を実施。「日本の力強いファンダメンタルズ(経済の基礎的条件)を反映した円高が望ましい」—点などを議論したことが明らかにされているし、先に記した 22 日の 1 回目の日米首脳会談でも「先方(トランプ氏)から円安によって米国の貿易が厳しいという話があった」と高市首相自身が述べている。

いずれにしても、日米の緊密な連携はキチンととれていると言ってよく、それだけに為替市場における協調姿勢をもう少し重視して損はない気がしないでもない。29 日付の日経新聞はメインタイトルで「一方的円安一服か」としつつ、サブタイトルで「ドル高圧力、基調は変わらず」—と報じていたが果たして如何に。油断は禁物だと思っている。(了)

[illegible]